

1 リズデイルの騎士ダグラスの死

- クラン・ダグラスの頭領の奥方は部屋を出て
声のかぎりに叫びます
「立派なリズデイルの騎士のため
私はこんなに涙を流すのです」
- 「もうやめないか 妹よ 5
もう泣くのはよせ
リズデイルの騎士には
どんな騎士でも敵^{かな}わない
- 「あの男のために泣く必要などないと
私の話を聞けばわかるだろう 10
やつはタインの軍を
きらめく高貴な剣で打ち破った
- 臆病風に吹かれ家来たちが蹴散らされるのを見ると
豪胆なヘイゼルバーンは怒りに燃えて
リズデイルの騎士と戦場で 15
激しく剣をあわせたのだ
- 『立ち去れ 高慢なスコットランド人』とヘイゼルバーン
『とっとと国に帰るがよい
それともヘイゼルバーンの剣先に
一撃必殺のこの手に立ち向う度胸はあるか』 20
- 「言うやいなや
ダグラス家の猛者リズデイルの剣は激しく攻め返し
ヘイゼルバーンの魂は
深く大きな傷口から抜け出した
- 続いて怒りに燃えたフォーセットが刺し貫かれ 25
苦しみのあまり血まみれの地を噛んだ
それを見たハリンシェッドは腰を抜かし
山ほどの略奪品をのこして逃げ出した

俺は東に行き 西に行き
数々の修羅場を見てきたが 30
大胆不敵さにおいて
リズデイルの騎士に敵うものはない

もし敵に立ち向かえと呼ばれ
大将は自分で選べと言われれば
リズデイルの騎士を選ぶだろう 35
勝利へと導く人として」

「おやめください ジョンお兄様
我慢して聞いていたけれど
リズデイルの騎士は死んでしまった
私を愛した廉で殺されたのです 40

正直者の私の小姓が
辛い知らせを持ってきました
私の夫が愛する人を襲ったと
反撃も逃げることもできないところで

「リズデイルの騎士は前衛の四人を殺し 45
さらに四人に酷い傷をおわせました
でも残忍な夫ダグラスが後ろから
あの方の美しい身体^{からだ}を刺したのです

エイグルの森に呪いあれ
ウィラミスの谷に呪いあれ 50
群れる卑怯者に呪いあれ
騎士の華を殺してしまった

大いに武勲を上げた
ラムゼイの復讐のためでも
裏切り者バークレイを不意打ちしたせいでもなく 55
ただ私に示されたやさしさのため 殺されたのです

三十人の騎馬隊に見張られて
私がリズデイルの谷から連れ出されようとしたとき
あの方が私を助けにいらして
すぐに自由にしてくれました 60

野の鳥は歌い 森はざわめき
柔らかな日の光が谷を照らす
やさしいリズデイルの騎士とお別れすることは
どんなに悲しいことであったか

あの方のために嘆きましょう 65
この涙が枯れるまで
あの方のために悲しみましょう
この声が枯れるまで

あのすばらしい方を慕い続けましょう 70
この心が張り裂けてしまうまで
もし私が死んだら
あの方の左側に埋めてください」

「もうやめないか 妹よ 75
おまえの悲しみは不幸と恥のもと
そうやって一族を裏切れば
ダグラス家の怒りはまぬがれまい」

「冷たい北風にとどまれと言っても無駄
猛る波に静まれと言っても無駄
王と夫とお兄様の前であっても
わたしはあの方への愛を隠さない」 80

兄ははしばみ色に光る剣をぬき
怒りの炎が瞳に宿った
「愛人のことは忘れるのだ 不実な妹よ
さもなくば誇り高い一族の怒りが降りかかろう」

妹は頬から髪をふりはらい 85
顔をゆがめて 三度大声で笑いました
「お兄様と夫がどんな命令を下そうと
それは私には通じないこと」

「おまえの誇りをおまえの報いとするがよい 90
こんなことをしたくはなかったが
ダグラス家の名を汚すことは許せない」
そして兄は妹の美しい体を刺しました

妹は胸から流れる血に指を浸しました

指はみるみる赤く染まりました
狂った^{まなこ}眼で兄の顔を見て 95
狂った^{まなこ}眼で天を仰ぎました

「ああ なんと酷いお兄様
血に濡れた指で書き残しましょう
お兄様の額に残しましょう
右手に書き残しましょう 100

「お兄様に子のない呪いを残しましょう
無慈悲な額に呪いを残しましょう
その手は嫉妬とおごりに導かれ
死ぬのは私ではなく あなたです

「太陽にかけて誓いましょう 105
嘘をついても神様をご存知です
お兄様の命の砂は残りわずか
妹の名は語り継がれ 兄の名は忘れられるのです」

「キリストが救いを送ってくださって 妹よ 110
おまえの呪いの言葉が成就しますように
スコットランドに良い医者さえいるならば
おまえの傷をたちどころに治してくれるだろう

「もしおまえが死んでしまえば 妹よ
私の地上での安らぎはもはやなくなってしまう
私はもはやここでは慰めを得られず 115
太陽のもと嘆き悲しんで暮らすだろう

もしおまえが死んでしまえば 妹よ
私はイタリアの地に赦しを求めよう
聖なる墓に^{ひざまず}跪こう
私の骨がおまえと共に眠るまで」 120

七ヵ月が過ぎる前に
妹の呪いは成就しました
兄は経帷子に包まれました
生きながらえた妹は国一番の美しさ

多くの者が恋にやつれました 125
その瞳が多くの心を惹きつけたから

次から次に夫を殺しては
次から次に新たな夫を迎えます

色恋沙汰を愛する人よ
ご婦人の呪いには気をつけよ 130
そこに生まれるのは血で血を洗う愛憎劇
心をゆるませ 身を細らせる

陽気な若者にとって女とは
甘美な痛みと酷い傷を与えるもの
老いた者にとって女とは 135
地獄に勝る酷い業火

(鎌田明子訳)